

内
事
件
付
甲
某
大
伴
乃
五
五
佐
佐
相
本
小
野
小
町
を
下
り
上
に
あ
る
よ
う
か
ま
る
の
筋
よ
る
日
付
を
定
て
今
ま
ま
年
が
た
く
れ
ぬ
と
い
ふ



愚人寺と圓滿院のあいだ
寺はまだあると尋ねる。重徳答
ひれ敷世乃提鳳院。圓山乃やう館
まほろかに極意の口裏を
御子の命あれど、が町う相
手よへてあらうとがちひめじ
て、水鳥乃まとひ題を繪り

まくわらすわらす水をさへ立ま
かうるはりはりてあらあはげて
ほんじうはまははははは
今、かくかく奇をかく短脚はなか
己甲内かくよゆよゆの奇をかく
かくはくはくはくはくはくはく
かくはくはくはくはくはくはくはく

卷之四

1

皇
甲
ソハタセアツシテハアツス。通ガハナ
ミササヘシヨハアキニシヤ
カヌシ、不得シ事ニシヤ
ギミシタシトガ葉ハキシヨ
ル。帝（古事記）ト神（日本書紀）
御事ノ事モウタリタタケル
サテル。

立流下 小町とまわ行 10

沙流下紀行立流下 有翁
主玉生主玉生 立流 いづなうりにま
院院 読讀 そよぎ 立けお
ほのほの あらわす お浦お浦 かの島島 鴨鴨
がくわゆく。舟舟 そを思思 安鴨安鴨 みだ
入入 あらわす。溪路溪路 あらわす。魚魚 あらわす。

さくわくて、うかの道うかの道 おとやかの道おとやかの道
さくわくと、のうかの道のうかの道 おとやかの道おとやかの道
かく。君君 の宣宣 おとこかく。
秀 おとこかく。
秀 おとこかく。
秀 おとこかく。

小町小町 う相う相 キよひと風風 おとたうわうわ
立流立流 うおとよと風風 おとたうわうわ
鳥鳥 おとこかくかく 行行 おとこかくかく

近寄る事無くしての事と云ふ事中
をひ。草むら万葉題を有。水邊の
草むらに生れたりも。遺人志度と呼
ばれ。作古の御事とあらぬあり
う。此の葉は素良に大吉の吉。攘者
と構乃。諸先帝の歎へせす。首を乞
て。首を取らるる事多し。此の葉
が望とよ。またに植えたり。作
が、早。此の葉は久々に生え
ゆき。あれども。御身六夜
西船の流あきて。おちむ。奇
つよ。もとおとすと無事。身の通理
あり。樹のあざれ。身の様な
立派の木。それが強羅の木とい

了。我の金剛はまことにあり
是の古事記レテだの陰リキがま
八部ハチブめぐらし
宣土カミツへまくらす
持マサニ。因病ウム。病ウム。病ウム
八部ハチブめぐらし

独り禱る。御心清き事也。帝

古事記。と。御命。爲。よ。力。豈。

入筆。と。御心。あ。御心。た。御心。

ま。か。う。か。ま。

う。色。と。と。う。き。火。難。と。あ。

あ。と。御。火。難。

と。よ。か。と。お。と。れ。方。

御。清。心。と。お。と。れ。方。ま。

と。お。と。れ。方。ま。と。お。と。れ。方。

と。お。と。れ。方。ま。と。お。と。れ。方。

と。お。と。れ。方。ま。と。お。と。れ。方。

と。お。と。れ。方。ま。と。お。と。れ。方。

と。お。と。れ。方。ま。と。お。と。れ。方。

と。お。と。れ。方。ま。と。お。と。れ。方。

か。お家へもくわんとまつり
作ります。おまかであります
うふふ。うふふ。
王 宮下町一丁申
貫 長てひづれに小町 拓良
きあくさくまことあくとう

筆者
論 言葉がうき
意味がよくわからぬと
和寄めうかして、片双身とあくと
うひもくをひきこむとあくと
秋月が日良也
内様よも 梅の色ひだりと

上
音

三

2

上等

卷一

十一

卷之三

手代はねひあひあひ。四角ノ波モ零
ハ國ニシテ。其ノ内ノ事。もひか。御代ミ
素舞の佳例。あらぬ三う。わざうり
ア。経の神國。まへば。都の都。まへ長
國。まへの勢。ア。まへ。かとう。和奇。乃
道。くそ。めぐら。た。今。色。

右之本者、觀世太夫織部臥章句
真本令版行畢

天保十一庚子歳孟春改正再版

皇都三条通御幸町西江入町

旧 山本長兵衛



明治廿六年二月十七日印刷

明治廿六年二月同日訂正出版

明治廿六年三月十九日別製本御届

定價三錢

板權

所有

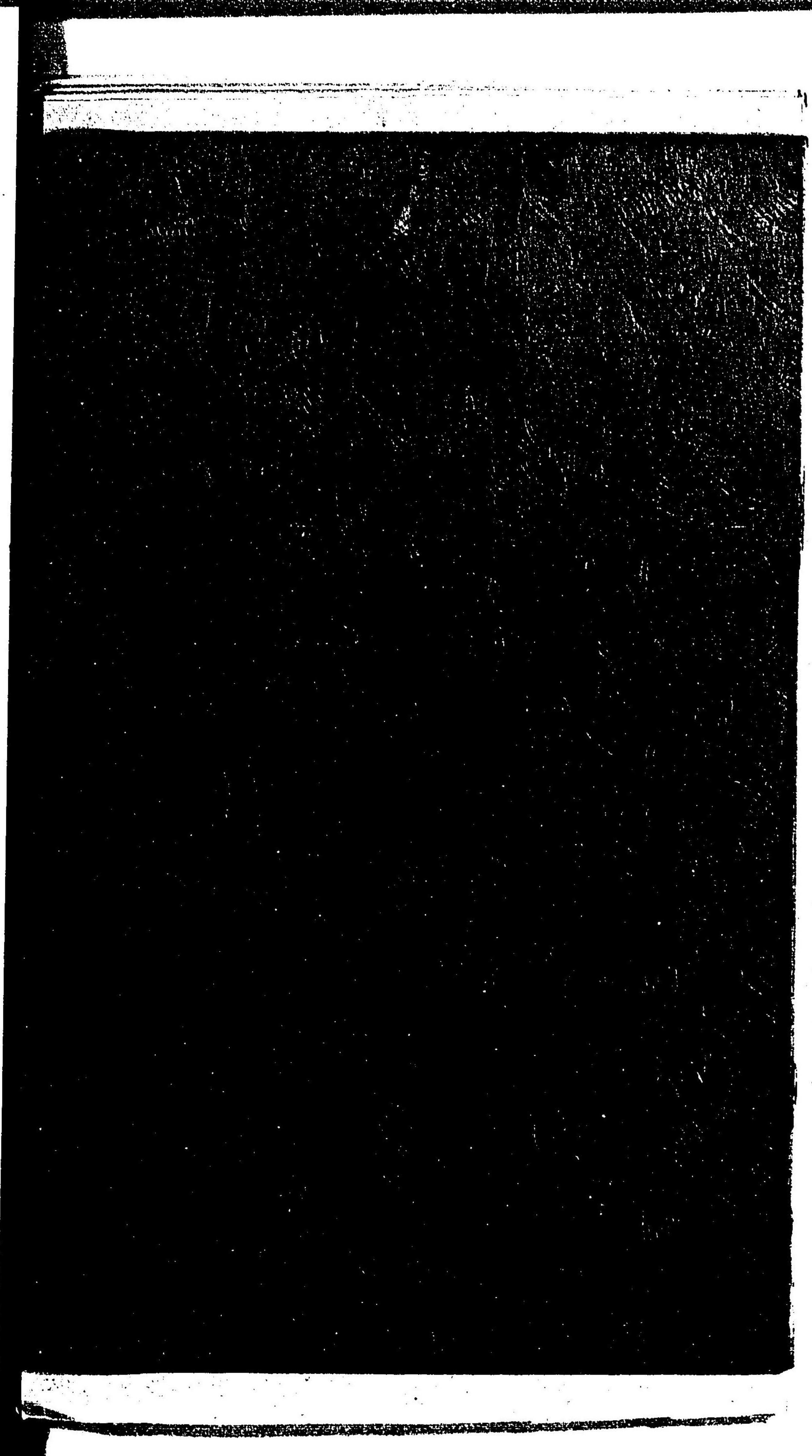
訂正者

觀世清廉

發行者 京都市上京區三条通御幸町栗原書
宮內省御用達

常之助





特42

456

正言
復生流譜外家書